

平成28年度 上越教育大学附属図書館 月曜〇〇講座  
平成28年7月11日（月）18時00分～19時00分

# どのように「問い」を立てるか？ ～教育現場で役に立つ研究を実践するために～



大学院学校教育研究科 臨床・健康教育学系  
教科・領域教育専攻 生活・健康系教育実践コース  
学校ヘルスケア科目群 食教育分野

教授 野口孝則 ([noguchi@juen.ac.jp](mailto:noguchi@juen.ac.jp))  
管理栄養士、臨床検査技師、京都大学博士（人間・環境学）

よろしく  
お願いします！



## 研究の動機・関心（感心）

- ・なぜ研究を行うのか
- ・「実践的な科学」の研究にチャレンジ
  - ・「研究上の問い」を問う
  - ・「研究上の問い」の探し方
  - ・「研究上の問い」の絞り込み

# なぜ研究を行うのか

- 教育の有効性・必要性を証明するため
- 教育や保育における技法の開発
- 実践の現場における結果の評価→さらなる改善

## 研究の定義と目的

- 「研究」よく調べて真理をきわめること（広辞苑）
- これまでの定説に従うのみならず, 新しい説や理論を打ち出すことは価値がある。

「知」の消費者 → 「知」の生産者



## 「実践的な科学」の研究にチャレンジ

- 「基礎」と「実践」の相互補完によって発展してきた（今後も発展していく）。
- 研究成果は、**科学的な新規性の価値**のみならず、教育現場での**実践に有効**であり、現場の教育をより良いものにする（**改善・向上**）ための研究成果であることが望まれる。

科学的根拠に基づいた実践  
Evidence-based Practice



# 「研究上の問い」を問う

## リサーチクエスチョン（研究上の問い）

- **何を**, 知りたいのか。
- **なぜ**, 知りたいのか。
- その答えは, 誰の**役に立つ**のか。
- その答えは, **より良いものに変えてくれる**ものか。

☆面白いか。

☆ワクワクするか。

☆ドキドキするか。

→こういう気持ち（感心）がないと続かない。

# 「研究上の問い」の探し方

## 「研究上の問い」に適さない問い

- 答えがわかっている。当たり前のこと。
- 答えを知りたいと思っていない。
- 答えが明らかになったところで, 役に立たない。
- 答えがない。
- 倫理的でない。

## 「研究上の問い」の探し方

- 日常の実践現場の中から
- 指導教員や仲間との議論の中から
- 発表されている研究の中から

# 「研究上の問い」の絞り込み

- 文献検索の重要性～先行研究の研究
- リサーチクエスチョンの構造化
  - P：対象者（Patients, Population）
  - E：暴露要因（Exposure） or I：介入（Intervention）
  - C：比較対照（Comparison）
  - O：結果・アウトカム（Outcome）
- これらを, **PECO（ペコ）** や **PICO（ピコ）** と呼ぶ。
- どのような人に, 何をすると, どのような場合と比較して, どのような結果になるか。
- **新しい事実**に迫ることが出来るのか。